

令和6年度 第4回三木市総合教育会議 要旨

日時：令和7年2月21日（金）午後5時～

場所：三木市役所 5階 大会議室

出席者：

構成員 仲田市長、大北教育長、石井委員、稲見委員、西岡委員

事務局 赤松総合政策部長、森田教育総務部長、鍋島教育振興部長、
堂元企画政策課長、田中教育総務課長、荒田教育施設課長、
手島文化・スポーツ課長、河端生涯学習課長、伊藤図書館長、
山口学校教育課長、武内小中一貫教育推進室長、
仲谷教育・保育課長、計倉教育センター所長、
小柳学校教育課副課長、本岡教育総務課長補佐

司会進行 堂元企画政策課長

1 開会

2 市長挨拶

（仲田市長）

本年度第4回目の総合教育会議になります。11月の総合教育会議におきましては、施設一体型小中一貫校の設置場所について、学校用地として閉校後の吉川高校が適切であるという結論に至り、教育委員会で先月、県へ跡地利活用について申し入れを行いました。本日の総合教育会議では、地域クラブ活動展開の進捗状況について、事務局から報告されることとなっております。教育委員会では、11月に地域クラブ活動展開ガイドラインを策定し、令和9年12月末をもって学校部活動を終了し、令和10年1月から平日、土日も含めて完全に地域クラブ活動を開始するというスケジュールも示されたところであります。また、地域クラブの設立や地域クラブ展開に係るかたを対象とした説明会が開催され、ゴルフ体験会も開催されました。部活動の地域展開につきましては、地域や保護者の皆様にとっても非常に関心が高いものであります。改めて、これまでの進捗状況について教育委員の皆様と確認させていただくとともに、御意見を伺えればと思っております。また、本日の協議事項は、第3期三木市教育大綱の策定

についてです。前回の総合教育会議で大綱案をまとめさせていただき、パブリックコメントを実施し、その結果について事務局から報告があります。本日の総合教育会議での協議を踏まえて、教育大綱を策定します。部活動の地域展開及び教育大綱は、将来の子どもたちにとって重要なことですので、皆様と活発な意見交換をさせていただきたいと思っております。

3 教育長挨拶

(大北教育長)

本日の総合教育会議では、三木市における地域クラブ活動の進捗状況について報告いたします。そして、第3期三木市教育大綱の策定に向けた協議を行います。部活動につきましては、「地域クラブ活動に移行」としていましたが、国の会議により「地域展開」という言葉に変更されました。三木市においても、学校の部活動をそのまま地域に移行するというイメージではなく、地域で新しい形の部活動を誕生させるイメージで、「部活動の地域展開」としてしています。これまでの部活動は、学校内の人的あるいは物的資源を活用して活動してまいりましたが、今後は地域に広く開き、地域全体で支えていただくコンセプトで進めていこうと考えています。部活動の地域展開を通じて、より豊かで幅広い活動を子どもたちに提供することを狙いとし、教育委員会ではさまざまな観点から進めています。そして、第3期三木市教育大綱については、本日の会議で協議いただいた上で策定することとなっております。社会の変化に対応していける子どもたちを育てていかなければなりません。そして、人生100年時代に向けて、有意義な人生を送っていただくためには、社会全体で支えていくことが必要になります。教育は、学校、家庭、社会全体で支えていくことをコンセプトとして、教育大綱を策定していきたいと思っております。三木市教育大綱は、三木市が一体となって取り組む教育の指針となりますので、市長とともに前向きに議論してまいりたいと思っております。

4 報告事項

三木市における地域クラブ活動展開の進捗状況について
(手島文化・スポーツ課長)

学校部活動の地域クラブ展開に係る取組の進捗状況について御報告いたします。

資料1の令和6年度の取組の進捗状況です。(1)小学校5・6年生、中学1・2年生とその保護者を対象としたアンケートを実施しました。約75%の児童生徒が地域クラブに参加したいと回答していました。アンケート結果につきましては、資料2に配布しておりますので、御覧いただければと思います。結果の資料はございませんが、教職員を対象としたアンケートも実施しました。21.4%の教職員が、地域クラブで指導ができるという回答をいただいております。

(2)、11月13日に兵庫教育大学の森田教授を講師としてお招きし、スポーツ・文化芸術団体等を対象とした地域クラブに関する講演会を開催し、65名の参加がありました。国が学校部活動を地域クラブへ展開していこうとする経緯や背景についてお話いただきました。参加者を対象としたアンケートを実施した結果、回答があった45名のうち、地域クラブ活動の指導者になることを希望するとの回答は約18%、希望しないとの回答は約27%、決めていないとの回答は51%でした。

(3)、11月15日に、「三木市における地域クラブ活動展開ガイドライン」を策定しました。ガイドラインにつきましては、資料3として添付しておりますので、御覧いただければと思います。

(4)、12月17日には、スポーツ・文化芸術団体等を対象とした地域クラブに関する説明会を開催しました。121名の参加があり、地域の皆様の関心の高さを感じました。参加者からは、指導者の資格要件や活動場所、生徒の移動手段、地域クラブの活動費等のさまざまな質問をいただきました。参加者を対象としたアンケートを実施した結果、回答があった70名のうち、地域クラブ活動の指導者になることを希望するとの回答は約26%、希望しないとの回答は約20%、決めていないとの回答は約54%でした。

(5)、1月18日・25日にゴルフ体験会を開催し、それぞれ9名と7名の参加がありました。ゴルフ経験者が多かったものの、未経験の児童の参加もありました。

今後の予定としまして、「三木市地域クラブ運営方針」(案)及び「募集要項」(案)の作成、地域クラブ設立及び登録に向けた説明会の開催、

生徒・保護者向け説明会の開催、三木市地域クラブ活動推進協議会の設立、三木市地域クラブ活動指導者登録制度の策定を行う予定としております。また、ゴルフクラブについては、4月に参加者を募集し、5月から活動開始するために準備を進めているところです。

(仲田市長)

11月にガイドラインを策定後、説明会やゴルフ体験会を開催したと報告がありました。11月13日の講演会では、地域クラブ活動の指導者を希望するかが、45名のうち18%、12月17日の121名の参加者を対象としたアンケートでは、回答があった70名のうち、希望する人が26%ということは、増えてきていると思っています。それを踏まえまして、教育委員から部活動の地域クラブ展開について、御意見をいただきたいと思っております。

(稲見委員)

市民が気になっていることは、これからの部活動の運営主体は、教育委員会なのか、それとも市民が自主的に運営するのかということです。市民とともに部活動の地域展開を進めていく場合、話し合いや協議を重ねる回数はかなり異なってくると思っています。特に、教育委員会では、1月にゴルフ体験会を開催し、それぞれ9名と7名の参加者があった中で、参加者たちの雰囲気など、5月からのゴルフクラブの活動開始に向けてどのように捉えられたのか、お聞かせいただきたいと思っております。

(大北教育長)

ゴルフ体験会では、初めてのかたや経験者のかたが参加されていましたが、その中にプロゴルファーと地域から2人の指導者も参加されて、大人や子どもたちみんな楽しく活動されていました。参加している子どもたちは、途中からゴルフボールがよく飛ばせるようになり、保護者のかたがたと楽しくお話ししながら帰っていく姿を見たときに雰囲気もよく終了できたと思っております。参加者の中からも4月にゴルフクラブに入りたいと手を挙げてくれる子どもたちがいるのではないかと期待しております。

(手島文化・スポーツ課長)

ゴルフ体験会に参加されたかたは、皆さん最後は「楽しかった」と言って帰ってくださったので、非常によい体験会ができたと思っています。指導者の先生が、ゲームのようにプロゴルファーと競争するような場面を作っていたいただき、経験者の生徒さんたちも非常に楽しんで参加されており、とてもよい雰囲気でした。

(稲見委員)

ゴルフ体験会には、学校が異なる子どもたちが参加したと思いますが、ゴルフ体験会が楽しい雰囲気でした。地域クラブがスタートしてからも、いろんな学校から集まって一つのクラブ活動を実施することになるため、子どもたちがなじめるかどうか心配していましたが、指導者と子どもの柔軟性に助けをもらいながらやっていると感じました。

(石井委員)

1月に全国の教育委員が集まる研修会に参加させていただき、私は地域クラブ活動の展開をテーマとして選択いたしました。地域クラブ活動の展開については、どの市町も手探りの状態で、他の市町のことを聞きたいと思って参加されているかたがほとんどでした。課題として、子どもたちの活動の受け皿や活動に係る受益者負担あるいは活動場所の確保が共通の課題として挙がっていました。実際のところ、研修には参加させていただきましたが、課題解決には至りませんでした。ただ、その中で鹿児島県内のある市町の事例を申し上げますと、国の実証事業としてモデル事業を進めているというお話を聞きました。その市町は、平日は部活動をしながら、土日の数時間を地域クラブで活動しています。その中で、子どもたちが選ぶ活動場所は、自力で行ける場所を選ぶ傾向があり、送迎を保護者が行うのが難しい状況であるという課題がありました。また、選ぶ種目は、部活動の延長でスキルアップを目指す子どもは同じ種目を選び、レクリエーションとして楽しみたいと思う子どもは部活動と違う種目を選ぶといった、それぞれが多様な活動をしています。国の実証モデル事業について、助成金を

どのように活用しているかを聞いたところ、保護者負担は安価な2千円から3千円に設定するとともに、スポーツ保険の掛金として助成金を活用しているという報告でした。部活動の地域展開においての実感として、土日の活動だけでは学校の先生の負担はあまり減っていないということでした。三木市が目指している令和10年度の完全移行をしなければ、負担感が減らないと感じました。これから進めていくに当たっての課題はいろいろありますので、できるところから始めていくことしかないと思います。もう一つは、ゴルフクラブについては、三木市が旗揚げしてクラブを立ち上げます。その中で、人もお金も不足している中で、先行して立ち上げるモデルクラブとなるため、役割を持って進めていただきたいと思います。そのモデルは、全く同じ形をつくるのではなく、立ち上げのプロセスを参考にしていきたいというお話を聞いております。後に立ち上げるクラブチームのためにも、活用できるような情報をリアルタイムで発信していただけるようお願いいたします。

(仲田市長)

最初にモデルクラブとしてつくるゴルフクラブは、他のクラブの先進事例になるため、しっかり取り組んでいかなければいけないという話をしています。初めてのことであるので、どのようになるか分かりませんが、現在の予定では将来的に統合する三木総合高校にもゴルフ部が創設される予定です。施政方針でお話しましたが、令和8年度から関西国際大学(経営学部)経営学科にゴルフマネジメントコースが設置され、令和7年4月から募集し、併せてゴルフサークルを令和8年度にはゴルフ部に昇格したいという思いも聞いています。関西国際大学の学生に手伝っていただけるようなことができればよいと考えています。地域のスポーツ協会との連携だけでなく、大学生や高校生とうまく連携していきたいと考えています。

(西岡委員)

現在の子どもたちの部活動は、やりたいことができている子がいる反面、やりたいことがないから部活動には入らない、本当はやりたいスポーツがあるけど、その部活がないから仕方なく違う部活動に入る

という子たちがいると思います。この地域クラブ展開になることによって、本当に子どもたちがやりたいこと、やってみようかなと思えるような地域クラブになればよいと思っています。

もう一点気になっていることは、地域クラブを運営するかたがたや保護者の負担についてです。これまでとは違う形のクラブ活動になるため、今まで学校でできていたことができなくなってしまうと、送迎の負担や会費等の金銭的な費用がかかります。家庭によって差が出てくることもあると思っています。送迎できる家庭は子どもたちが活動できますが、そうでない子どもは諦めなければいけないのかとなってしまうと、全ての子どもたちが等しく活動することができなくなってしまうと思います。みんなが平等に活動できる機会を与えてほしいと思います。そのため送迎の仕組みやサポート、助成金等の支援も考えていく必要があると思っています。

(仲田市長)

子どもが少なくなり、野球やサッカーなどの団体競技ができなくなり、複数の学校で部活動を結成しています。そして、先生の負担軽減という理由もあり、国の方針で部活動を地域に展開していこうとなったわけです。国が部活動の地域展開を進める中で、どこの市町もスタートしていますが、正しい答えがありません。試行錯誤しながら進めていくしかないと思いますが、保護者による送迎や費用などの課題があります。どこまで行政が負担するのか、これからの議論だと思います。家庭環境によって格差が出ることはよくないと思いますので、その点は配慮していく必要があると思います。

(石井委員)

保護者として思うことは、これまで学校の先生に人的・物的負担を強いてきたということを理解し、意識の改革をしていくことが大事ではないかと思っています。当たり前ことができなくなって初めて分かるという感じです。現状と比べたときに、どうしても先生にいてほしい、見守っていてほしいという今までの固定観念があります。例えば、今の状況では先生が一市民として地域クラブの講師となった場合でも、学校の先生としての役割も期待してしまうと思います。保護者側も自

分たちが地域クラブを支えるということを前提に、子どもたちがスポーツをしたいのにできないということにならないようにしなければなりません。習い事としての要素もありますので、一定の理解が必要だと思います。負担しなければならない部分もあるので、保護者も意識の改革が必要ではないかと思います。

(仲田市長)

部活動が、学校教育からいわゆる社会教育の位置付けに変わるため、一定の負担があります。国が率先して進めているため、国においても保護者負担が避けられないことを周知していただきたいです。教育委員会を含めた行政側もPRをしていく必要があります、保護者にも理解していただくことが大事だと思います。

御意見ありがとうございました。いずれもさきほどいただいた意見を踏まえて、一定の負担も理解いただけるような説明、そして、各家庭の事情により大きな格差が出ないような取組も併せて検討していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

5 協議事項

第3期三木市教育大綱の策定について

(仲田市長)

教育大綱について、パブリックコメントの結果について事務局から説明をお願いいたします。

(小柳学校教育課副課長)

資料4、第3期三木市教育大綱の7ページを御覧ください。11月に開催しました第3回総合教育会議において、7ページにあります4「人生100年を通じた学びを支えます」のうち「(2)社会教育の推進」の2つ目について、事務局案では、「公民館、図書館等の社会教育施設を充実させ」という表記にしておりました。しかしながら、その表記では施設面を充実させるハード面の充実と読み取れるため、社会教育施設の機能を充実させる表記にするべきという御意見をいただきました。それを受けて、事務局で本日の資料のとおり、「公民館、図書館等の社会教育施設の機能を強化し」という表記に修正しました。こ

れを第3期三木市教育大綱の最終案といたしまして、広く市民の皆様から御意見を伺うため、令和6年12月17日から令和7年1月17日までパブリックコメントを実施しました。この教育大綱案は、三木市役所企画政策課、3階情報公開コーナー、吉川支所、市立公民館及び市のホームページにおいて公表を行いました。そして、郵送、FAX、電子メール、市民の声の箱への投函などの方法で意見をいただくこととしておりました。その結果、2件の御意見をいただきましたが、いずれも氏名や住所等の必須事項としているものの記載がなく、パブリックコメントとしての提出要件を満たさない御意見でございました。そのため、結果としましては、パブリックコメントとして提出要件を満たしていた御意見はありませんでした。したがって、第3回総合教育会議においてまとめた第3期三木市教育大綱案については、修正等を行わず、本日の会議において協議した上で、第3期三木市教育大綱を策定したいと考えております。

(仲田市長)

改めて教育委員から、これからの教育、新たな第3期教育大綱への思いも聞かせていただければと思います。

(稲見委員)

第3期教育大綱は、社会教育という言葉が前面に出してきているところが大きな特徴だと思っています。これまで学校においては学校教育、家庭内教育との連携、そこに今は地域教育との連携という3つのトライアングルにより、児童生徒の教育を進めていこうという方向性だと思っています。とはいえ、学校の先生が学校の運営方針などを進められる中、家庭は家庭でそれぞれの役割を持ちながら子どもを育てていきます。地域はどのような役割なのか、我々は地域にこのように子どもたちを育てることはできないかという投げかけをしていくようなプログラムを見せていく必要があります。今から地域は何をしてよいか分からない状態になると思います。一つはコミュニティスクールという組織を運営していますが、地域との連携をどのように進めたらいいのかという御意見を情報収集し、動きの発信基地の役割を担う必要があります。そして、地域クラブが今からスタートしようとしています。

ので、これもうまく連携することで、地域における社会教育の推進がどのように進んでいくのか将来が見えてくると思っています。これまで、三木市は生涯学習に力を入れてきました。個人の学びだけにとどまってしまうことが生涯学習の落とし穴だと思っています。これが集団や団体、サークルに発展していかないことが生涯学習の一番の欠点だと思っています。社会教育団体などに発展していくことが大変難しいと思います。教育振興計画等においても、具体的な取組を盛り込みながら、市民とともに頑張っていけたらよいと思っています。

(石井委員)

学校教育や社会教育に限らず、全体的なこととして、子どもや大人にとってそもそも学ぶということが、知る喜びを身に付けていくことが大切であると考えます。学校教育の中にあつた部活動が地域クラブに展開することになるため、学校本来の仕事として、子どもたちに学校現場でしか味わえないことに注力してほしいと思います。そこに地域の皆さんを巻き込んで一緒に活動したり、授業改善などを行ったりしてほしいです。学校も地域もわくわくする場所であってほしいと思います。そういった三木市にするために私たちが今やらなければいけないことは、教育大綱に載っていることだと思っています。そうすれば、子どもたちは地域に溶け込んで、学校でわくわくすることを見つけたら、自己肯定感が上がっていき、自信も付けられると思います。学校は失敗してもよい場所、地域も失敗してよい場所だと大人たちが見守っている場所になることによって、子どもたちが自信を持って社会に出ていく一つの基盤が出来上がります。そこから主体性も生まれると思いますし、自分を大切に、他の人も大切にできるようになっていきます。昔は、自然と身に付けてきた社会性がありましたが、今の子どもたちはICT環境の中で、対面交流の機会が減っています。あえてこれからは、対面交流の場を設定していく必要があります。それが体験活動であって、その中で感動を覚えたり、自分の実体験によって感じたことは、自分がこうでありたいと見つけたりするきっかけになります。教育大綱に全てが盛り込まれていますので、この方向性で5年先も10年先もこの教育大綱を基にして、三木市の教育を進めていきたいと考えています。

(西岡委員)

昨年の10月から教育委員させていただいて、それまで教育大綱を知りませんでした。三木市は、教育をどのように考えているということを知ったという機会になりました。教育大綱には、「親が子どもとともに成長し」という文面があったり、「家庭の教育力を高める」という文面があったりしました。今まで教育大綱を知らない中で子育てをしてきましたが、教育大綱を知った上で、自分には何ができるだろう、家庭では何ができるだろうと考えるきっかけになります。どれくらいの保護者が教育大綱の存在を知っているのか分かりませんが、そうやって教育や子育てをどうやっていけばよいかを考えるきっかけになるものになってほしいです。

(仲田市長)

教育や子育てをするに当たり、家庭だけではなく、いかに地域も巻き込んでいくかが重要だと思います。部活動が地域へ展開することで先生が本来の仕事である授業改善に取り組んでいただくことは非常に大事なことだと思いますし、子どもたちはICT環境の整備が進む中、体験活動が減ってきています。三木市は地域資源に恵まれた地域であり、金物体験や農業体験、ゴルフ体験、防災体験ができます。小学校5年生では、馬術体験ができ、市内に馬術施設があり、すぐにできる環境があるのは三木市だけだと思います。また、自己肯定感が低い子どもが多いと思います。学校や地域は、「わくわくする場所、喜びを身に付ける場所」というのは大変よい言葉だと思います。ただし、大事なことは、計画を策定しても市民に周知して理解していただくよう、行政と教育委員会が努力しなければなりません。ホームページ等で多くの市民に周知することが非常に重要だと改めて認識をしたところでもあります。

(大北教育長)

各委員からいただいた意見が、教育大綱に盛り込まれていると思っております。教育大綱は、限られたかただけが見るのではなく、たくさんのかたに読んでいただき、理解していただいて、子どもたちを全

員で育てる一つのバイブルになったらよいと思っています。今はICT環境が発達しました。子どもたちはタブレットを1人1台持っていますが、タブレットは今までになかった素晴らしいツールであり、大いに活用していくことが大切です。そして、心を育てるために、対面という言葉がありました。会って熱を感じたり、空気を感じたり、触ってみたり、タブレットの画面ではなく本物と対面することによって心が育つと思います。両面のよさについては、学校教育で意識的に仕組んでいく必要があります。ある学校では、休み時間はタブレットを触らせませんと決めている学校があります。休み時間は外へ出て、みんなと遊び、そこで培うものがたくさんあります。また、不登校が増えており、不登校について考えるフォーラムを行い、区長や保護者、教育委員にも来ていただき、理解していただくことができました。不登校について、学校が困っていたり、子どもたち自身がしんどくなったりしていることを地域が理解していただくことが本当に大事だと思います。たくさんのかたと一緒になって考えていただく機会をこれからもつくりたいと思います。トライやる・ウィークで中学2年生が地域や企業にお世話になっています。その中で、得るものが多く、地域も一生懸命関わってくださっており、双方向でよい関係が築けています。トライやる・ウィークについては県の事業ですが、より充実したものにしていきたいと思っています。子どもたちが学校の中でじっとしているのではなく、社会に飛び出していく機会を意識してつくっていかねばならないと思います。先日、自由が丘中学校において、コミュニティスクールのかたたちが授業をしてくださったという新聞記事がありました。コミュニティスクールのよさが生まれてきたと思います。一步一步ですが、学校に新しい風を吹き込む、新しい考えが入っていくと思います。たくさんのかたにお世話になりながら全員で子どもたちを育てていきたいと思っています。それが教育大綱の中にあれば、いろいろなかたにも見ていただくことで、みんなで三木市の子どもを育てていたらよいと思います。学校だけが教育をするべきではないと思っていますので、全員教育でお願いしたいと思っています。教育委員会はそのような場所を提供したり、機会をつくったり、支援をしたりしていく伴走的な支援やリーダー的な支援に取り組んでいきたいと思っています。

(仲田市長)

学校だけではなく、地域を挙げて教育をしていくことが大切です。トライやる・ウィークでは、子どもと地域や企業のマッチングを考えなければいけません。小学校での農業体験では、本市の魅力を伝え、継承していくことが大事だと思いました。私が県議会議員の時代に、県の「ひょうご教育創造プラン」を策定する際、教育に熱心なかたが集まり、意見交換をしました。保護者に関わってもらいよい仕組みはないかと考えました。関わったかたはPRをしてください。教育委員会事務局でもそういったよい仕組みを考えていただければよいと思います。

本年度の総合教育会議は、本日で最終となります。三木市教育大綱はこの内容で策定し、部活動の地域展開はこれからも進めていきたいと思っています。